

# 自立した持続可能な地域社会創造事業「地域づくりセミナーin村上」

2017年11月9日～10日／会場:朝日みどりの里、他

村上市で開催した今年の「地域づくりセミナー」講師は、1999年創刊から“地域の未来を考える人のバイブル”として幅広い読者がいる雑誌「ソコト」の指出版編集長をお招きしました。54名の参加者から積極的な質疑応答が交わされました。

天気にも恵まれた翌日の現地視察は、地域資源の活用、ゲストハウスや廃校利用といった現場を見学し、担当者からお話を伺いました。

## 目次:

11月9日(木)13:30～

### 挨拶

(一財)新潟ろうきん福祉財団  
理事長 江花 和郎  
村上市自治振興課課長  
川崎 光一 氏

### 研修会

ソーシャル&エコマガジン月刊ソコト編集長に聞く ローカルな取り組みから見える未来  
講師 指出 一正氏  
(月刊ソコト 編集長)

### 成果報告会「地域社会創造助成事業助成団体」

- ① 岩沢アチコタネーゼ
- ② (特非) ふあいんど
- ③ (特非) 里山クリーン新潟
- ④ (特非) かみえちご山里ファン倶楽部

### 交流会

#### 挨拶

(特非) 都岐沙羅パートナーズ  
センター 忠 隆司氏

11月10日(金)9:00～13:00

- ①シルクフラワー工房
- ②高根フロンティアクラブ
- ③ゲストハウス瑞泉閣

## 挨拶



主催挨拶として、江花理事長は、県内各地で活動する実践者である皆さんに、5年目を迎える「地域づくりセミナー」が、助成金と共に役立ててもらっていることに感謝を述べました。

## 研修会 ソーシャル&エコマガジン月刊ソコト編集長に聞く ローカルな取り組みから見える未来

1999年に創刊したソーシャル&エコマガジン「ソコト」の編集長という肩書だけではなく、プライベートでもいくつかの地域に通っている指出さんから、豊富な事例を交えながらお話いただきました。

「この20年で、お金の使い方が変わってきた」と、指出さんは感じています。例えば、90年代までは車や家、ブランド服、、、というようにモノを買う時代だったが、昨今は、「綺麗な夕日を見たい」「工芸品を作ってみたい」といったように体験や経験を買う時代になり、新たに「関係性」を買う人が増えているそうです。

シェアオフィスやゲストハウスが若者に人気があるのも、「お金がない」という理由ではなく、そこに行かないと出会えない人、見えないものといった「関係性」を買っているから。「移住、定住人口を増やす」という手法から、関係人口という



地元村上市より、自治振興課川崎課長から歓迎の言葉とともに、村上市でも小規模多機能自治の考えで地域活動に取り組んでいることに触れ、挨拶をいただきました。

視点を持つこと」が、これからの地域づくりには必要です。

また、月刊「ソコト」には、同じ人を何度も紹介することがあり、その理由は「定点で見る」ということを大切にしているからです。「定期的に足を運ぶことで、地域のうつろいがよくわかる」と指出さんは、おっしゃいます。

「ローカルな取り組みがなぜ若者を引き付けるのか」、「自治体で、関係人口という視点で取り組んでいるところはあるのか」、「世代間ギャップをうめるにはどうしたら」といった参加者からの質問に、指出さんは、事例を踏まえながら回答いただきました。



## 2016年度地域社会創造助成事業 成果報告会

「地域社会創造助成事業」は、3年間の応募が可能となっており、今回は継続助成を受けている4団体から成果報告を行っていただきました。

◆岩沢アチコタネーゼは、小千谷市で、5年前に地域住民が中心となり発足し、交流人口や活性化に取り組んでいます。2015年は、農家レストランの運営向上のために本助成金を活用しましたが、2016年度はこれに続くコミュニティビジネス事業として、農家民宿の開業を行い、経済活動と新たな雇用の創出に向けた成果が発表されました。

◆特定非営利活動法人ふあいんどは、見附市で障がい者と高齢者を中心とした6次産業を行い、2014年、2015年、2016年と3年間の助成期間が終了しました。菊芋製品、りんごチップス、乾燥野菜、葉茶といった健康づくりに役立つ商品開発のため機材を整え、農福連携に取り組んだ結果が課題とともに発表されました。

◆特定非営利活動法人里山クリーン新潟は、阿賀野市で、しいたけや大根、果物などを乾燥し、地域の道の駅などで販売を行っています。2015年、2016年と、乾燥機や作業棟などを整備し、地域の農家と連携して取り組んだ結果が発表されました。

◆特定非営利活動法人かみえちご山里ファン倶楽部は、上越市で2001年から地域資源調査や伝統文化の継承を経済活動にもつなげるしくみづくりを行っています。2015年、2016年と、長岡市与板地域との協同開発による刃物づくりを行い、ネット販売を開始し、新たな仕事づくりの成果が発表されました。

地域社会創造助成事業に関する助成団体名、金額、事業内容はすべて「ろうきん財団」ウェブサイトから公開されています。

## 現地視察



2016年度に第7回地域再生大賞を受賞された特定非営利活動法人都岐沙羅(つきさら)パートナーズセンターの協力により、村上地域の3団体の取り組みを視察しました。

まずは、朝日みどりの里内にある「シルクフラワー工房」にて、「朝日村まゆの花の会」の活動を伺いました。まゆを使った手芸キットから、芸術的な作品や日用品まで販売されており、お土産を買い求める参加者の姿も見られました。

車で20分ほど移動し、高根集落にて、2016年に40代の青年たちが設立した「(一社)高根コミュニティラボわあら」の取り組みを伺いました。古民家を改修した「ゲストハウス瑞泉閣」を見学し、「トヨタ財団」から助成を受けた「高根棚田耕作状況調査」の報告など、中山間地域の農業や高齢化など地域課題への取り組みに、参加者から活発な質疑応答が寄せられました。

同時に、地域活性化に取り組む「高根フロンティアクラブ」は、99年に「高根集落の元気づくり」のためのワークショップを通じて、理念と活動計画を作成し、様々なイベントを通じて県内外の団体と交流しており、活動内容や成果を伺いました。



最後に、2000年に廃校した小学校を再生し、2003年から開始した食堂「IRORI」で、人気の「そば定食」をいただきました。



(一財)新潟ろうきん福祉財団

新潟市中央区新光町6番地2  
勤労福祉会館4階

電話: 025-288-5273

FAX: 025-288-5274

電子メール: info@zaidan-hukushi.or.jp